

生徒が主体的に学ぶ国語教室の創造

～文章の構成と展開の工夫を学び、表現する学習指導の在り方～

1 研究のねらい

西臼杵地区は、山間部に位置し、全中学校7校のほとんどが小規模校である。それぞれの学校で実施された宮崎県学習状況調査やNRT検査の分析から、「要点をまとめる」、「文章構成の理解」の二つの項目が他の領域よりもやや低く、「読む力」が十分に生徒に身に付いていないことが分かった。また、国語に関するアンケート調査では、説明的文章にやや抵抗のある生徒が多いことが明らかになった。

説明的文章においては、筆者は自分の考えや意見を読み手に伝えるために、様々な工夫を凝らしている。その工夫を的確かつ正確に読み取る力は、自分の考えを形成する上でも重要な意味をもつ。そこで、説明的文章に抵抗を感じている生徒に対し「読む力」を身に付けさせるための学習指導の在り方について研究を行ってきた。

2 研究の内容

(1) 「読む力」を身に付けさせるための4つの柱

- ① 「接続語・指示語」に注目し、文章の構成と展開を読み取る手立て。
- ② 問題提起と筆者の主張や考え、事実と意見をとらえ、文章の構成と展開を読み取る手立て。
- ③ 文章構造図を作り、文章の構成と展開をまとめる手立て。
- ④ 学習した文章の構成と展開を自分の表現に生かす手立て。

以上の手立てを、各学年の教材において系統立てて実践した。

[各学年の手立て] (◎は重点指導 ○は関連指導)

	教材名（東京書籍）	①	②	③	④
第1学年	「オオカミを見る目」	◎		○	○
	「脳の働きを目で見てみよう」		◎		○
第2学年	「食の世界遺産」	○	○	◎	
	「恥ずかしい話」		◎		○
第3学年	「絶滅の意味」	○	○		◎
	「テクノロジーとの付き合い方」				◎
	「テクノロジーと人間らしさ」				◎

(2) 実践例

- ① 「接続語・指示語」に注目し、文章の構成と展開を読み取る手立て。
第1学年の「オオカミを見る目」という教材で、検証授業を行った。
前時の授業で、「接続語・指示語」が、どのようなつながりを示すものなのかの指導を行い、実践問題で定着を図った。その上で検証授業では、あらかじめ、文章の「接続語・指示語」を空欄にしておき、文章の前後から各自で適切な「接続語・指示語」を入れさせた。さらに、班で話し合いを行わせ、適切な「接続語・指示語」について考えさせた。
- ② 問題提起と筆者の主張や考え、事実と意見をとらえ、文章の構成と展開を読み取る手立て。
第2学年の「恥ずかしい話」で検証授業を行った。「恥ずかしい話」は、筆者の主張や考えが複雑に書かれている文章の展開となっており、その展開を、順を追って一つ一つ丁寧にとらえることが極めて大事になる教材である。1年生で学習した「接続語・指示語」、文末表現に注目させながら、班で話し合いを行わせ、筆者の主張や考えに迫らせた。
- ③ 文章構造図を作り、文章の構成と展開をまとめる手立て。
第1学年の「オオカミを見る目」において、検証授業後の指導で文章構造図を作成させた。生徒は、班で話し合いながら、文章の前後の関係に注目して、文章構造図を作成した。
- ④ 学習した文章の構成と展開を自分の表現に生かす手立て。
第2学年の「恥ずかしい話」で、筆者の文章の構成や展開をまねて、意見文を書かせた。説明文に抵抗感を感じていた生徒も、自分の考えを書くことができた。
第3学年では「絶滅の意味」で、主張を支える具体例、異なる立場の主張を踏まえ反論するという、二つの工夫点のいずれかを参考に意見文を書かせた。

3 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 「各学年の手立て」を作成することで、西臼杵地区での説明的文章の指導を明確化することができた。
- ② 「読む力」を身に付けさせるための4つの柱を明確にして、3年間を見通して指導することで、生徒は説明的文章への抵抗感が少なくなり、意欲的に取り組めることが分かった。
- ③ 接続語や指示語、問題提起と筆者の主張や考え、事実と意見、文章の構成や展開などについて指導することで、論理的な文章に込められたさまざまな工夫に着目する生徒が増えた。

(2) 今後の課題

- ① より多くの生徒が文章の構成や展開を踏まえて、要約や意見文が書けるようになるための指導方法の検討を、西臼杵地区全体で取り組まなければならない。
- ② 「各学年の手立て」に基づいた学習指導の在り方について、生徒の実態に合った、指導法の工夫・改善を行っていく。